

ふくしまの森林文化調査カード

No.13

県 HP公開の可否 (可 ・ 否)

区分	1. 森づくり 2. 森の恵み 3. 森と技 4. 森と暮らし 5. 森の文化財 6. 森の風景	
分野(ふりがな)	(分野) 石斧	(ふりがな) せきふ
地域独特の呼び方	—	—
タイトル	縄文時代・弥生時代の石斧	
伝承地域	—	
由来(年代)	今から12,000～13,000年前から縄文時代が始まり、旧石器時代に比べて比較的温暖な気候が続き、時代とともに人々は定住の生活を送るようになる。 この頃に旧石器時代の石斧に比べて大型で肉厚な伐採や加工用の磨製石斧が各地に出現する。	
内容	人々は磨製石斧を用いて、居住地を伐り拓いたり、村周辺の森林の中から、丸木船、建築材、木製の道具に適した材料を切り出し、加工していろいろな道具を製作した。 磨製石斧が出土した主な県内の遺跡としては、福島市仙台内前遺跡などがある。 弥生時代には、森の資源を利用して、木製の道具を造る技術も大きく進歩し、鉄製などの金属製品の出現という大きな変化があった。	
大きさ・材質	(大きさ) —	(材質) —
見頃	—	
交通アクセス	JR新幹線：新白河駅から約4キロ、タクシー10分、バス15分 東北自動車道：白河インターチェンジ下車約20～30分	
文化財等の指定状況	—	
問い合わせ先	福島県文化財センター白河館・まほろん (Tel: 0248-21-0700)	

【フリーフォーマット】

キーワード



左上: 弥生時代の道具復元品

右上: 縄文時代の磨製石斧

中下: 縄文時代の道具復元品